市立病院　令和2年度決算報告

令和2年度大和市病院事業決算について、9 月議会にて決算認定を受けましたので報告します。

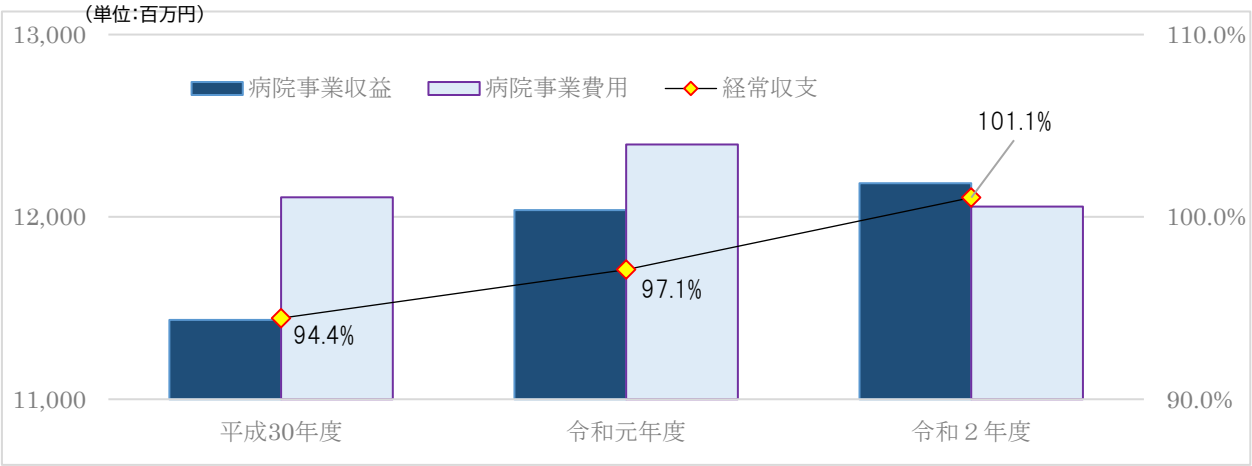
1.　令和２年度決算の背景について

- 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受け、特に、4～5 月、1～2 月は、不要不急の診療制限に加えて、患者さんの外出抑制も重なり、診療収益は非常に大きく減少しました。
- 一方で、本院は神奈川モデルにおける重点医療機関病院等として新型コロナウイルス感染症疑似症患者や中等症患者の治療を行ってきました。こうした医療提供体制の整備等と並行して、病床確保に要する費用の助成を受けることで、医業収益の減収分を補てんしてきました。
- さらに、新型コロナウイルス感染症対策寄附金を創設したところ、多くの皆様から医療従事者への支援･感謝等の気持ちとして、19,188 千円ものご寄附をいただきました。

2.　病院事業決算の概要

（単位:千円）

①	収支状況	平成 30 年度	令和元年度		令和2年度	前年度比較	増減率
②	**病院事業収益**	**11,434,694**	**12,037,767**		**12,184,975**	**147,208**	**1.2%**
③	医業収益	10,153,620	10,535,500		9,167,790	△1,367,710	△13.0%
④	入院収益	6,233,544	6,451,200	A	5,460,651	△990,549	△15.4%
⑤	外来収益	3,206,630	3,373,491	B	3,147,451	△226,040	△6.7%
⑥	その他医業収益	713,447	710,810		559,688	△151,122	△21.3%
⑦	医業外収益	1,277,321	1,499,738	C	3,015,500	1,515,762	101.1%
⑧	特別利益	3,753	2,529		1,685	△844	△33.4%
⑨	**病院事業費用**	**12,107,017**	**12,397,057**		**12,057,128**	**△339,929**	**△2.7%**
⑩	医業費用	11,500,089	11,688,787		11,385,316	△303,471	△2.6%
⑪	給与費	6,572,919	6,407,274	D	6,329,157	△78,117	△1.2%
⑫	材料費	2,510,777	2,659,989	E	2,389,635	△270,354	△10.2%
⑬	経　費	1,782,209	1,754,192	F	1,838,029	83,837	4.8%
⑭	その他医業費用	634,183	867,332	G	828,495	△38,837	△4.5%
⑮	医業外費用	540,699	575,996		573,748	△2,248	△0.4%
⑯	特別損失	66,230	132,274		98,064	△34,210	△25.9%
⑰	経常収支	△ 609,847	△229,544		224,226	453,771	197.7%
⑱	**純損益〔 ①-② 〕**	**△ 672,323**	**△359,290**		**127,847**	**487,137**	**135.6%**



＜主なポイント／収入＞

● **病院事業収益**：12,184,975 千円（前年度比＋147,208 千円、1.2%の増）

A **入院収益**：5,460,651 千円（前年度比△990,549 千円、15.4%の減）

入院患者数:89,851 人(前年度比 21,985 人の減)、一日平均患者数:246.2 人(前年度比 59.4 人の減)

≪主な要因≫ ・ コロナ禍により、不要不急の診療(手術等)を控えたこと

・ コロナ病棟(7 階南病棟)設置に伴い、使用不可病床を増やしたこと

診療単価： 60,775 円(前年度比 3,091 円の増)

≪主な要因≫ ・ 地域医療支援病院の認定取得により係数が高くなったこと

・ 単価の低い地域包括ケア病棟をコロナ病棟として運用したこと

B **外来収益**：3,147,452 千円（前年度比△226,040 千円、6.7%の減）

外来患者数:182,055 人(前年度比 32,836 人の減、一日平均患者数:749.2 人(前年度比 146.2 人の減)

≪主な要因≫ ・ コロナ禍により、不要不急の診療が控えられたこと

・ 全国的な傾向として、小児科(常時マスク等感染予防の徹底)や整形外科(スポーツ含む外出抑制)の患者が大きく減少

・ 地域医療支援病院となったことに伴い選定療養費を 5,500 円としたことで、紹介状のない患者が減少(機能分化が推進しました)

診療単価： 17,288 円(前年度比 1,589 円の増)

≪主な要因≫ ・ 急性期を脱した軽症患者について逆紹介を推進したため

C **医業外収益**：3,015,500 千円（前年度比+1,515,762 千円、101.1%の増）

補助金：1,498,043 千円（前年度比＋1,423,173 千円）

≪主な要因≫ ・ 空床確保(1,258,125 千円) ・受入れ病床の確保に応じた補助(135,000 千円)

患者数の増減

①	主な病院経営指標	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
②	**入院 延患者数**	108,691 人	111,836 人	89,851 人	△21,985 人
③	入院1日平均患者数	297.8 人	305.6 人	246.2 人	△59.4 人
④	占 床 率	73.9%	75.8%	61.1%	△14.7 P
⑤	**外来 延患者数**	224,650 人	214,891 人	182,055 人	△32,836 人
⑥	外来1日平均患者数	920.7 人	895.4 人	749.2 人	△146.2 人

＜主なポイント／支出＞

● **病院事業費用**：12,057,128 千円（前年度比△339,929 千円、2.7%の減）

D 給与費：6,329,157 千円（前年度比△78,116 千円、1.2%の減）

≪主な要因≫
- 入院患者が減少したため時間外勤務手当等が減少
- 365 日体制としていた脳卒中当直について、応需件数が低かったため、R2.10 月から週 4 日（火・木・土・日）体制に限定することで、非常勤医師の報酬を減額。

E 材料費：2,389,635 千円（前年度比△270,354 千円、10.2%の減）

≪主な要因≫
- 入院・外来患者の減少に応じた減
- 病院総務課・薬剤科・経営戦略室が連携して薬価交渉に臨み、過去最高幅となる薬価の減を達成しました（値引率 16.6%、影響額約 2.2 億円）。

F 経　費：1,838,029 千円（前年度比+83,838 千円、4.8%の増）

≪主な要因≫
- リニアック関連保守費用の増（+59,440 千円）
- 医事業務の一部を直営から委託化※半年間（+38,869 千円）

G その他医業費用（減価償却費）： 798,845 千円（前年度比△36,316 千円、4.3%の減）

≪主な要因≫
- 令和元年度の資産購入が少なく、新規の減価償却が抑えられたため

3. 主な指標（類似病院との比較）

	項　目	類似病院（令和元年度）	令和2年度	比較
①	経常収支比率	99.5%	101.9%	△5.5 ﾎﾟｲﾝﾄ
②	職員給与費対医業収益比率	52.9%	64.8%	+16.1 ﾎﾟｲﾝﾄ
③	材料費対医業収益比率	25.8%	26.1%	+0.3 ﾎﾟｲﾝﾄ
④	経費対医業収益比率	18.8%	20.0%	+1.2 ﾎﾟｲﾝﾄ
⑤	100床あたり医師数	21.5 人	22.4 人	+0.9 人
⑥	100床あたり看護師数	83.4 人	79.4 人	△4.0 人

※類似病院：①～④経営主体市、400 床以上 500 床未満、⑤～⑥経営規模別／一般病院

R2 年度は、入院外来収益が大きく落ち込んだため、医業収益比率の前年度比較は、参考になりづらい面があります。

4. 収支改善に向けたその他の取り組み

1）経営状況の院内周知の徹底

経営企画会議の毎月開催、日々占床率掲示、四半期ごとに短観レポートの作成し院内配布。

2）経営管理手法「バランススコアカード」による、各科ごとの目標管理

医療従事者は医療の質に重きを置く傾向のところ、財務の視点が入ることで経営的意識が向上。

3）外科系当直体制の見直しによる経費削減（土日の日当直）　※令和 3 年度～

原則として常勤医が土日の日当直を受け持つことで、非常勤医師の報酬を削減。

4）患者さんに選ばれる病院となるために、病院からの積極的な働きかけ　※令和 3 年度～

① 地域連携推進に向けて、医師と地域連携科によるクリニックへの挨拶訪問。

② 病院ホームページの刷新（写真挿入、診療実績の掲示等）

5）経営企画会議における経営課題検討　※令和 3 年度～

① 効果的病棟運用　② 診療単価工場　③ 外来の診療適正化について　それぞれ検討